

みらい図書だより

No.6 (2018.11)

発行：東京未来大学図書館

〒120-0023 東京都足立区千住曙町 34-12 TEL：03-5813-2540 (内線 1202) FAX：03-5813-2529
URL：http://www.tokyoumirai.ac.jp//library/ 印刷：上武印刷株式会社

図書館と私

モチベーション行動科学部 学部長補佐 郭 潔 蓉

私にとって図書館は今も昔も「ドラえもののポケット」のような存在です。何故かという、図書館は私自身の人生の節目において、様々な役割を担ってくれたからです。

まず一つ目は、日本語の先生という役割です。小学校を卒業するまで、父親の仕事に伴って、私は国を跨いで5つの小学校に通いました。そのうち、2つが日本の小学校でしたが、当時の私は日本語を書くことはおろか、話すことさえまなりませんでしたので、授業についていくことがとても困難でした。そんな私にとって、自宅近くにあった図書館の蔵書である『日本国語大辞典』は日本語を学ぶ上で素晴らしい教材となりました。持ち出し厳禁の「閲覧用」のシールが貼られた分厚い辞書は、自宅用の辞書にはない例文や用法が沢山載っていて、それらを参考にして、懸命に宿題に取り組んだのを今でも良く覚えています。

二つ目は、人生の指南役という役割です。そう言う少し大げさですが、私が最も図書館を利用したのは、多感な中高生時代だったということも手伝っているかもしれません。その時代は、勉強のためというよりは、小説を借りるために利用していました。図書館にある数々の作品からは、人生の泣

き・笑い・恋愛・友情など、心を揺さぶられる名作に出会うことが出来ました。ジャンルも時代小説からサスペンス、文学小説と幅広く読み漁りました。話はほとんどがフィクションですが、それぞれの作品から得られたものはとても大きかったと感じています。学生時代の読書は、今振り返ってみても、私自身のその後の人生観に大きく影響していると言っても過言ではないと思います。

最後に三つ目は、知恵袋の役割です。研究者になった今の私にとって、図書館は、無数の書籍から先人たちの知恵が得られる貴重な玉手箱的存在であるということです。インターネットが普及した現在でも、知りたいことがある時、調べ物をする時、必ず足を運び、自分の目で文献を確かめることを大切にしています。

こうして振り返ってみると、図書館は私にとっての生涯学習の場であると感じています。自宅近くの区立図書館を覗くと、多くの若者たちが真剣なまなざしで本を探している光景に良く出会いますが、ぜひ世代にわたって多くの人が図書館を人生の学習の場として活用してくれることを願っています。



東京未来大学今昔物語 その5

モチベーション行動科学部 田 中 真奈美

2007年に東京未来大学に着任し、初めて大学の図書館へ入った時、その開放的な雰囲気にちょっとびっくりしました。図書館とは思えない広々とした解放的な空間で、窓が大きく、木を基調にした家具が配置され、木漏れ日が差し込むようなとても居心地のいい雰囲気でした。時々少し疲れた時などに図書館のソファに座って、まどろんだことを思い出します。私にとって今でも心休まる空間です。

開学当初は、毎日新聞を読みに来る学生がいました。その姿を見て、自分の大学時代を思い出しました。私が在籍した大学の図書館には、なんと日本語の百科事典があったのです。今と違いインターネットもなく、日本の情報は簡単には得ることができず、そして、日本語の本はとても高い時代でした。そういう環境にいと、日本語の活字に飢えることがあり、

よく日本語の百科事典を読んでいました。本からはいろいろな情報を得ることができ、学びの原点だということを実感したのを思い出します。

未来大学の図書館の蔵書数も初年度から比較すると、随分増えてきました。毎回図書館に行くと、新しい本を見つけたのが楽しみです。図書館で勉強している学生も増えてきました。もっとたくさんの学生が課題をするために図書館を利用してほしいと思います。

皆さんもぜひ本を読み、知識を得る喜びを知るために、図書館を利用してください。未来大学の図書館には英語の本もありますし、いろいろなDVDもあります。本が苦手な人は、まずDVDから学びを始めてみるのもいいかもしれません。

司書のつぶやき

図書館司書 伊藤 結美

本学から一番近い公共図書館、足立区立中央図書館が凄いことをご存知ですか？

北千住駅からは少し遠いのですが、とにかく広く、蔵書数も多いです。足立区内の図書館蔵書数は、東京都の公立図書館で5位（平成30年度東京都公立図書館調査より）、そしてその中でも中央図書館の蔵書数は、図書だけで69



万冊を超えています。

現在の足立区の図書館の歩みは戦後から始まりました。昭和23年（1948年）には足立区立第三中学校にGHQの読書席を開設、昭和27年（1952年）には移動図書館「きぼう」号が開始されました（1987年廃止）。旧中央図書館は昭和44年（1969年）に開館。レコードコンサート、おはなし会などを定例化、視力障害者用

録音テープの貸し出し、「本のとらば一ゆ」（廃棄本の配布）の実施などによって図書館の利用促進に努めてきました。その中央図書館は平成7年（1995年）の生涯学習総合施設計画に則して新設されることになり、平成12年（2000年）7月に現在の場所（生涯学習施設「学びピア21」内）に開館。イベントの開催や、様々な展示などで、地域に密着した図書サービスの拡大を図っています。特に中央図書館では「子供の読書活動の推進」に努めていて、児童書が豊富にそろっています。蔵書数は約12万冊。大人にも懐かしい紙芝居などもあります。

足立区内の図書館で本やCD、DVDなどを借りる場合は、「個人貸出カード」が必要となります。登録条件は、区内在住・在勤・在学の方、その他当区が認めている近隣地区（23区、草加市、八潮市、川口市）に居住されている方です。本学の学生証を持って行けばすぐに利用できます。「個人貸出カード」があれば、インターネットから予約もできます。また、館内でのみ閲覧できるデータベースなどの複写もできるそうです。

スペースなどの関係上、本学の図書館で所蔵できる資料は限りがあります。是非公共図書館、足立区立中央図書館を利用してみてください。

東京未来大学の先生方ご自身が人生の節目、節目で影響を受けた本、思い出に残る本を紹介します。

ライフステージご

● 今井 康晴先生（こども心理学部）

①『兎の眼』灰谷健次郎

教職を目指す学生にお勧めの一冊。教職を目指すかどうか悩んでいたときに、道しるべとなりました。

②『アルジャーノンに花束を』ダニエル・キイス

ドラマ制作もされた一冊。「障害とは何か？」について考える機会となりました。障害を一つの「個性」として尊重し、支援していくことを学びました。

③『おこだでませんように』作：くすのきしげのり

絵：石井聖岳

絵本です。しかし、子どもだけでなく、子育て中の親、保育者や小学校の先生に読んで欲しい一冊です。授業で読み聞かせをしてあげたいのですが、いかんせん涙もろく、読むことが出来なくなってしまいます…。気になったら是非。

● 大橋 智先生（こども心理学部）

①『兎の眼』灰谷健次郎

クラスに一人はいる不思議な子。一人と深く向き合うと、一人ひとりがより見えてくる。教師をめざす人にはぜひ。

②『一人の男が飛行機から飛び降りる』バリー・ユアグロー

眠りの中で観た夢をこっそりブログに書いています。シュールで笑える夢を集めたらこんな本に。柴田元幸訳も○。

③『火星の人』アンディ・ウィアー

楽天的に絶望。問題は小分けに。ガムテープは宇宙で役立つ。人間は誰でも互いに助けあう。サクサクと夢中に読めます。





おすすめの一冊『恐竜は滅んでいない』小林快次 角川新書

こども心理学部 こども保育・教育副専攻長 真家 英俊

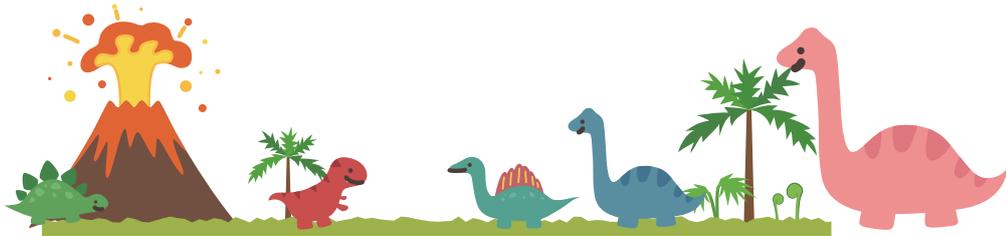
おそらく多くの男の子がそうであったと思いますが、私も子どもの頃は「恐竜」が大好きでした。恐竜図鑑を何度も繰り返し眺めては、勇壮に地面を闊歩する恐竜たちの姿を思い描いていたことを思い出します。恐竜が絶滅したのはおよそ6600万年前ですから、化石などさまざまな資料を手がかりに、その姿や生態を科学的に推測しなければなりません。誰も見たことのない恐竜、でも、はるか昔たしかに存在していた恐竜、そんなところに一種の浪漫のようなものを感じていたのかもしれない。

しかし、子どもの頃に眺めていた恐竜たちの姿は、その後の研究によって大きく変わりました。一部の恐竜には羽毛があったというのも驚きでしたが、絶滅したはずの恐竜の中には、現代の鳥へと進化した種類もいるという説は衝撃的でした。つまり、目の前を飛び回っているハトやスズメは、あの恐竜が進化した姿であるというのが、現在の恐竜研究では共

通の前提となっているのです。

「過去をより遠くまで振り返ることができれば、未来をより遠くまで見渡せるだろう（ウィンストン・チャーチル卿）」著者の小林先生も、恐竜の研究を通して過去を見つめることが、人類の未来を見渡すことにつながると言っています。今から2億3000万年前に現れ、約1億6000万年以上に渡って繁栄した恐竜たちのトピックスがたくさん紹介されています。恐竜にみられる合理的な進化、あるいは多様化は本当に魅力的です。その一方で、生物にとって進化と絶滅は表裏一体であるとし、人類の繁栄は必然なのか偶然なのかといった問いかけには考えさせられます。

また、この本では「恐竜」という研究分野の面白さについても多く触れられています。著者の恐竜研究に対する情熱、真摯な姿勢、あるいは恐竜に対する愛情がさまざまな形で表現されている、とても刺激的な一冊です。



との「一冊」

思い出の本・
忘れられない本

- ①私の10代（少年期）の一冊
- ②私の20代（青年期）の一冊
- ③私の30代（壮年期）の一冊

●篠崎 雅春先生（モチベーション行動科学部）

- ①『重要紙面でみる朝日新聞90年 1879-1969』朝日新聞社
教科書で習う近代史をその時代に生きていたかのような感覚になる本でした。歴史はその時代の大量の希望や雰囲気を知ることも重要で、広告も時代を反映するものと感じました。



- ②『ジャパンアズナンバーワン』エズラ・F・ヴォーゲル
大学生最後の年に読んだベストセラーです。「日本型経営」のすばらしさが書かれ、夢にまで見たアメリカ以上に豊かな日本の時代がやってくると思わせた本です。

③『巨いなる企て』堺屋太一

石田三成の企ては失敗した結果になりましたが、自分より大きな相手と戦う場合、志と巻き込み力があれば、勝つ可能性があるということを知った一冊でした。

●飯島 宏実先生（エンrollment・マネジメント局）

- ①『五体不満足』乙武洋匡
生き方を学ばせてもらいました。自分自身の悩みがちっぽけに思え、筆者の心の強さに感動したことを覚えています。

②『一瞬の風になれ』佐藤多佳子

社会人になって忘れかけていた青春時代の懐かしい思い出が蘇りました。「青春っていいなあ」と思えた作品です。

③『かみさまは小学5年生』すみれ

胎内記憶をテーマにした映画「かみさまとのやくそく」に出演した小学生の作品で、優しい気持ちになれた1冊です。



図書館貸し出しランキング (2018/4/1 ~ 2018/9/30)

順位	書名	貸出回数
1位	かがみの孤城／辻村深月著、ポプラ社、2017	6回
1位	崩れる脳を抱きしめて／知念実希人著、実業之日本社、2017	6回
1位	星の子／今村夏子著、朝日新聞出版、2017	6回
1位	くれよんのくろくん／なかやみわさく・え、童心社、2001	6回
1位	ぼくおかあさんのこと…／酒井駒子文・絵、文溪堂、2000	6回
6位	屍人荘の殺人／今村昌弘著、東京創元社、2017	5回
6位	記入に役立つ保育がわかる実習の記録と指導案 0～5歳児年齢別・実習完全サポート 部分実習指導案と連動した遊びつき／山本淳子編著、ひかりのくに、2011	5回

図書館にある本

学生作品から

トラウマになる

まうと、い、お、は、か、毎、を、い、ま、
か、界、お、は、か、い、日、お、で、
れ、へ、ほ、ほ、た、見、探、お、起、
て、つ、り、け、た、つ、し、し、き、
し、れ、の、に、に、て、て、も、
う、い、て、に、に、に、に、に、



185/2046 須賀彩妃
夜遅くまで起きて
いる子は早く寝た
いと思っ内容です。

ねないこだれた

185/2046 須賀彩妃
夜遅くまで起きて
いる子は早く寝た
いと思っ内容です。

テンポの良いセリフ

「とけい」がなりま
す、ボン・ボン・
ポの、良いセリフが
多く、怖さだけで
なく楽しい要素も
あります。また、
子供たちの「怖い
は感情を豊かにし
ます。是非、一度
読んでみて下さい。

須賀彩妃さんの作品

さちこのてはどうして

みんなとちがうの...?
指方、知現で
のあれ...が
右ん言つやこ
まどとにちな
つちこ分直
れっの自さち
手さ手。為立
生・右すれ、
子にまふれ、

この作品は、先天性
四肢障害に困わって
いる方々が作られた
ものです。指のない手
「不思議な力をくれる
まほうの手」と言っ
たお父さん。その
言葉でさっ
ちゃんほ手
い現実を乗り
り越えるまっ
かけを得ます
言葉は不思議な力...



ちっちゃんのおまほう

まほうのて...
「とけい」がなりま
す、ボン・ボン・
ポの、良いセリフが
多く、怖さだけで
なく楽しい要素も
あります。また、
子供たちの「怖い
は感情を豊かにし
ます。是非、一度
読んでみて下さい。

かぞくの愛

さっちゃんは自分の
障害を受け止めるの
辛く、大変だと思っ
ます。現実をまっ
えるお母さんと、不
思議な言葉で勇気を
くれるお父さん。感動
良いおはなしです。
子ども大人も、
読んでいい
人には是非読んで
ほしい本です。

1E 18S12165 藤藤 志保

佐藤志保さんの作品

編集後記

先日、家の周りを散歩していたら、意外な場所に街の図書館を見つけました。入ってみたところ、なかなか大きなスペースで、たくさんの方が本を読んだり、勉強をしたりしていました。最近、専門書が少ない街の図書館を利用することはほとんどないのですが、いざというときに籠って勉強できる場所を見つけたということだけでも、自分の使えるリソースがひとつ増えたような気がして、嬉しい気持ちになりました。私は、大学の図書館で本探しをしているときは、仕事の締め切りがあって切羽詰まっていることも多いのですが、図書館の静かな環境に身を置いているだけでも、少し落ち着いた気分になります。図書館という場は、書籍の利用だけでなく、使う人によって、いろいろな機能を持つものなのでしょうね。学生のみならず、大学図書館がご自身にとってどのような機能を持ちうるのか、ぜひ考えてみてください。利用の幅が広がるのではないのでしょうか。

(平部正樹)